



# 2年後に増築・増床を予定 医療機能の向上を図り 包括的な医療を地域に提供

2015年に大阪府がん診療拠点病院に指定された佐藤病院。北河内エリアの急性期病院として地域密着型の医療を提供する中、2年後には増築・増床も予定。ますます医療機能を向上させる中、河合院長に地域医療のあり方をうかがった。



PROFILE

社会医療法人 美杉会 佐藤病院

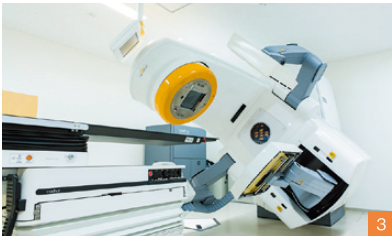
河合 泰博 院長

## 包括的な医療で地域に

### 2年後の増築・増床により

さらに地域密着型医療を充実

1979年の開院以来、地元の治療需要に柔軟に应运ってきた佐藤病院は、社会医療法人美杉会の中核病院として法人グループ内の各施設と一体的運営に努めている。外科や内科、整形外科、脳神経外科など幅広い診療科を持つほか、がんを含む急性期医療にも取り組む同院は、常に医療の質と安全の確保向上に力を注ぎ、現在では外来患者数は1日約450人、平均在院日数12日前後、病床利用率100%。まさに地域住民にとって欠かせない病院として支持されている。「美杉会グループは八幡市の男山病院・みのやま病院のほか、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、健診センターなど多種の機能を持ち合わせています。現在は27施設で69事業所を展開し、職員数は約2300



1.定期的に無料で参加できる市民健康セミナーや、市民公開講座を実施。医師や看護師、管理栄養士などが地域住民に役立つ医療情報を届けている 2.枚方市と共同して災害訓練を実施。災害時には救護所が病院前に設けられる 3.細かく絞った放射線を集中的に照射する放射線治療装置「ノバリスX」

## がん診療拠点の役割

### がんの治療率向上を目指し 最新の医療技術を導入

2015年に大阪府がん診療拠点病院に指定された佐藤病院では、あらゆるがんに対して手術、放射線治療、化学療法を組み合わせた標準的な集学的治療に努めている。「がん治療の充実に取り組んできた当院では、放射線治療において2013年に高精度放射線治療センターを開設。最先端の放射線治療装置「ノバリスX」を導入し、従来放射線治療装置に比べてよりピンポイントな照射ができるようになりました。治療効果が高く、照射範囲を2.5ミリ単位で制御できるため正常な細胞への放射線照射を最小限に留めることが可能です」。放射線治療に関しては、放射線治療専門医、放射線治療専門技師、医学物理士など専門的な知識経験をもつスタッフが治療にあたるのも安心だ。前立腺がん領域においては2016年に前立腺センターを開設。IMRT(強度変調放射線治療)を採用し、根治治療に励むほか、乳がんに対する診断や治療にも積極的だ。「最新のデジタルマンモグラフィ撮影装置をはじめ、小さな乳がんでも同定できる高分解能の超音波装置を装備し、乳がんの手術には「ICG蛍光法」を導入しています。従来法と比べて切開範囲を最小限に止めることができ、健康なリンパ節を残せるほか、見落としを極力防ぐことができます」。



大阪府がん診療拠点病院に指定される佐藤病院。高精度放射線治療センターでは、放射線治療専門医、放射線治療専門技師、医学物理士など専門のスタッフが治療にあたる

## 目指すべき病院のあり方

### いざという時も頼りになる 地域全体を守る病院づくりへ

増築・増床による病院機能の向上に加え、高度医療に取組み、先進的な技術も整備するなど地域に密着した包括的な医療サービスを提供し続ける佐藤病院では、いざという時に頼りになる病院として枚方市と共同して災害訓練も実施している。「日本ではいつ何時、災害が起こるかわからないという状況です。災害が発生した時は病院前の駐車場に緊急の救護所を作って、ケガ人に対応できる体制を整える予定です。いざという時に地域の人のためになる。それが病院のあるべき姿なのです」と河合院長。佐藤病院は今後も市民の頼れる存在として広く貢献していくに違いない。